

クラブ製造業者 宛

溝の形状

はじめに

2010年の溝の仕様の特定の分野を明確にし、溝の形状について2つの追加的な要件を提案した2009年7月28日付けの文書について言及します。前回の文書は、2010年1月1日から発効する新しい溝の仕様の意図の裏をかく可能性のある横断面や特徴をもった溝のデザインを含んでいたり、そうしたものを記述している特定の製品が提出されたり、様々な特許出願があったことから、急を要するものでした。

その文書の内容には同意しないという人たちの見解を含み、製造業者から寄せられた回答を慎重に考慮した結果、R&A ルールズリミテッド (The R&A) は、明確にされた溝の縁の解釈を進め、溝の壁面と底に関する追加的な要件を採用することに決定しました。

R&A はゴルフ界で広く支持された2008年8月に発表された新しい溝の仕様は、ゴルフの最大の利益のためのものであるという見解のままです。この新しい規則の意図は広く受け入れられ、理解されているということがあるにせよ、この規則の当初のドラフトはその内容をより明確にする恩恵を受けることは明らかであり、そうすることで新しいデザインによってその意図の裏をかかれることを防ぐことになるでしょう。

結果として、そして2010年1月1日という施行日が差し迫っていますが、R&Aはこの規定は明確にされ、補完されるべきであるという見解です。既存の規則についてのそのような明確化とガイダンスはすべての関係者にとって有益であると考えられます。

溝の仕様—2010年1月1日発効

ご参考までに、2010年の溝の仕様の更新された完全な文言は別紙にてご確認いただけます。溝の形状について今回決定されたことは、次の2つの項に特に影響します：

- (ii) 「溝は**単純**で、左右対称の横断面をもたなければならず、収束しない側面をもたなければならぬ。」

R&Aの「単純な」溝の定義/解釈は：

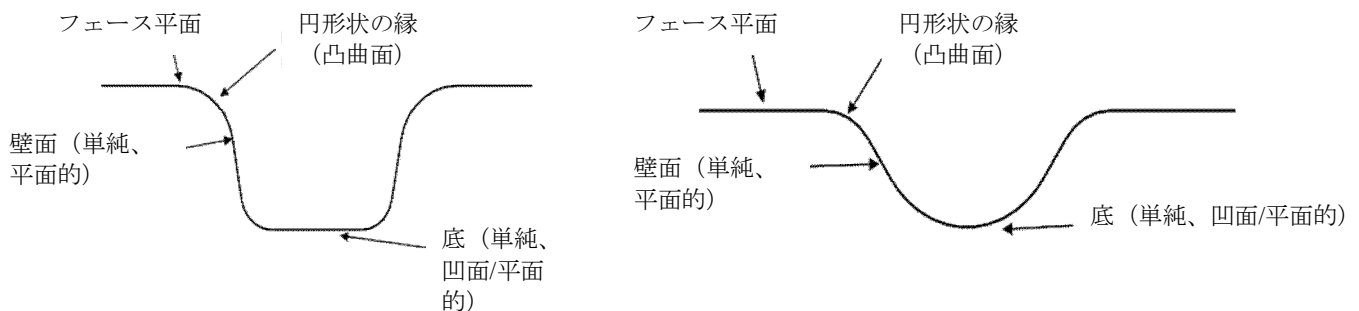
- 溝はフェース平面から著しく逸脱するところから始まり、フェース平面は縁を経て溝の側面（あるいは壁面）につながる。側面（あるいは壁面）は溝の底まで続く。
- 溝の側面（あるいは壁面）は実質的に単純で平面的でなければならない。このことは屈曲、壁面へのインデント（くぼみ）、あるいは壁面からの突出というような特徴を認めない。
- 溝の底面もまた実質的に単純でなければならず、相対する2つの溝の側面（あるいは壁面）に凹形状あるいは平面としてつながっていなければならない。
- 溝の縁は凸曲面でなければならず、鋸歯状の縁、ギヤの歯、あるいはその他類似の特徴を含んではならない。

- (ii) 「ロフト角が25度以上のクラブについて、溝の縁は（2サークル法によって）測定されたときに、0.010インチ（0.254ミリメートル）以上、0.020インチ（0.508ミリメートル）以下の有効半径を有する**実質的な円形状**でなければならない。」

この項は縁は円形状でなければならないということを明確にするために修正されました。R&Aのこの項の解釈はさらに次のように説明することができます：

- この丸みは溝の壁面とフェース面の平面が正接する円弧から成らなければならない。そうしたことから、「丸み」の端は縁の端と一致する。端のひとつはフェース面の平面との接合部をマークし、端のもう一方は溝の壁面の始まりをマークする。
- R&Aは溝の縁の範囲を定義する権利を有している。面取り、平縁、刻み目などを含む（これらに限らない）縁の形状は、円形状をしていないので規則に不適合となる。製造のばらつきの結果としてこの要件を厳密な意味で満たしていない縁の部分については許容が認められることがあるが、そうしたばらつきは最小限でなければならず、クラブの意図されたデザインの一部であってはならない。

上記に基づいて、下記の図は認められる溝の形状の実例：



誤解を避けるために、ドライバーとパターを除き、2010年1月1日以降に製造されるクラブのすべての新しいモデルは上記と別紙に記述された要件を満たさなければなりません。上記に記述されたすべての解釈的な情報は「クラブと球についての規則ガイド」の次の改定版で公表されるでしょう。

上記についてご質問がある場合には、どうぞ私までご連絡ください。

David Rickman

DAVID RICKMAN
Director of Rules and Equipment Standards